

弁護士が語る

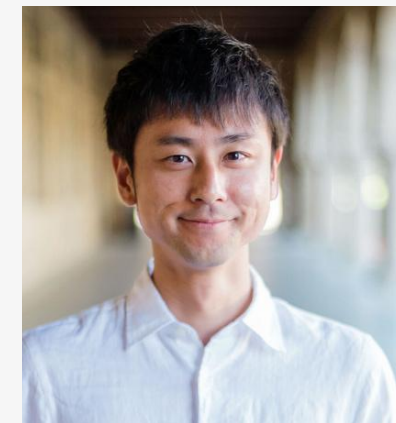
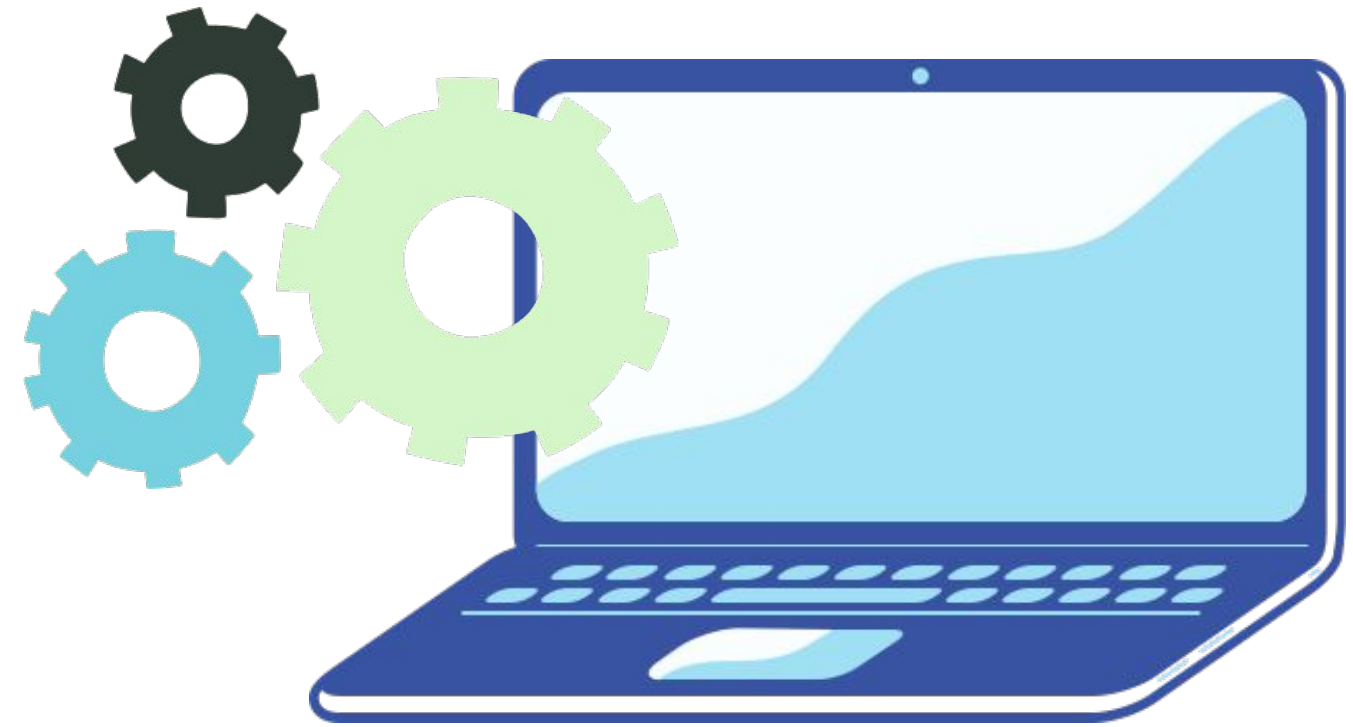
AI時代に気をつけたい  
企業法務の  
変革ポイント



# 法務もAI時代に突入

昨今、AI技術をはじめ、さまざまなリーガルテックが登場しています。とくに、**法的文書レビューにおける法務部門の業務**が、今後激的に変革するのではと期待が高まっているでしょう。

しかし、流行だからといって、すぐにAIを取り入れてもよいのでしょうか？AI時代に突入したいまだからこそ、**法務部門が変革を成し遂げるために気をつけるべきポイント**があります。



## 渡邊 弘

株式会社BoostDraft 共同創業者/CRO

西村あさひ法律事務所弁護士

スタンフォード経営大学院及び同法科大学院にてLegalTechビジネスに係る研究を行う。

同大学MBA及びLLM。

# AIは「契約審査業務」の効率化につながる？

AIを活用できるシーンは増えていますが、  
現代の契約審査領域において、AIはまだ限定的な対応しかできないのが実情です。

## 期待とのギャップ

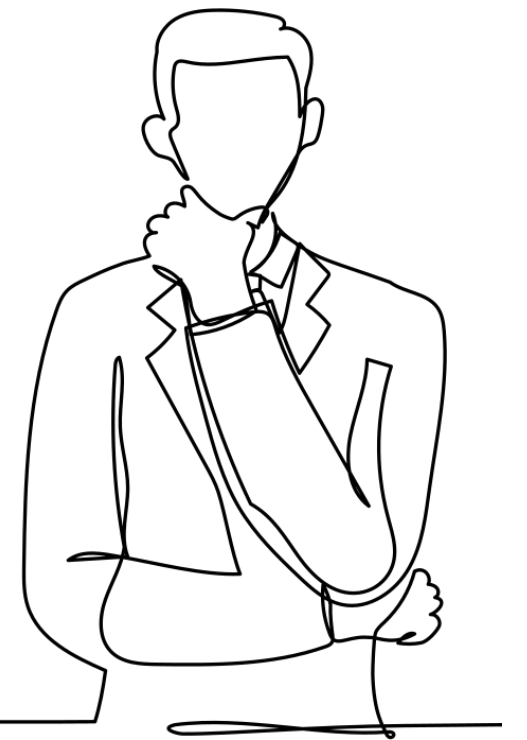
法務担当者には、法的文書をレビューする際に、言語化が難しい様々な事情を加味することが求められます。しかし、AIによるレビューは一般的な指摘にとどまりがちです。



- ・当事者の力関係
  - ・社内外の交渉力学
  - ・ときどきの社会情勢
- などを考慮しなくてはなりません。

## 結果、成果につながっていない

AIが指摘したレビュー内容を再度確認・検討するのに結局時間や手間がかかり、担当者自身で対応したほうが確実な場面も……。



# いま、法務担当者が対応すべきこと

AIによる劇的な業務変革が起こるのは、まだ当分先と言わざるを得ません。

だからこそ、その時が来るときに備え、**地に足のついた方法で技術を吸収し、少しずつ業務の合理化を進めていく**ことが、いま法務担当者が対応すべきことだと言えるでしょう。

それでは、合理化すべき業務とは一体なんでしょうか？

## 法的文書レビュー

### こんな状況になっていませんか？

- ✓ 法的文書内の参照や定義、引用法令の確認で無駄な時間がかかる。
- ✓ 変更履歴の調整、フォント・インデント・表記ゆれなどの誤記の修正に追われている。
- ✓ システム利用時にログイン・ファイルのアップロード等、操作上の手間が多い。



**これら“内容に関わらない”  
無駄な非効率の解消がカギ！**

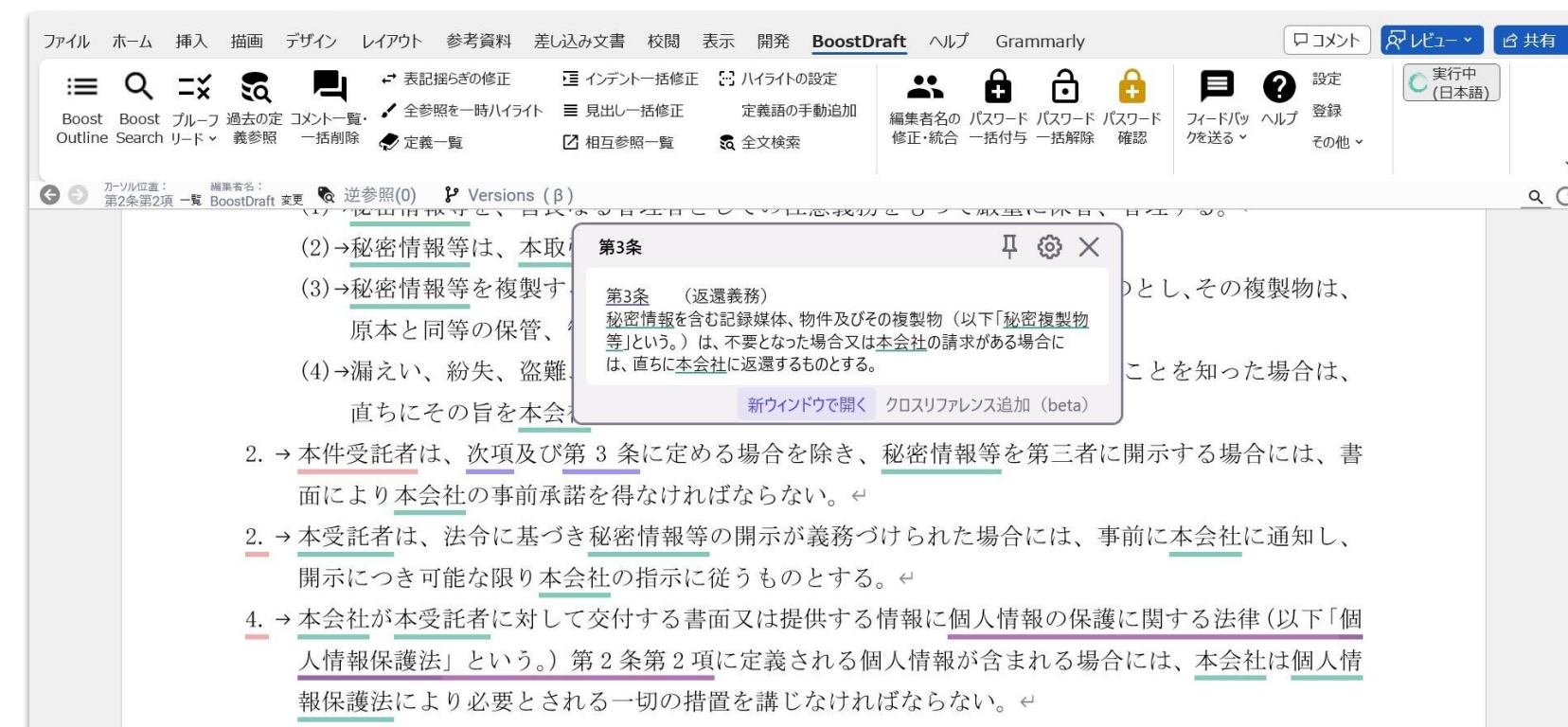
法的文書の“内容面に関わらない”

無駄で苦痛な作業を自動化するなら



Word上でリアルタイムに参照や定義を下線で強調。

内容はポップアップで表示し、その部分のみ確認すればすぐに内容を把握できます。



- 日本語も英語も法的文書全般に対応
- インターネット不要でデータの外部送信なし
- Word上で動作が完結するため業務フローの変更は必要なし
- 比較的安価で高い費用対効果を実現

まずはデモをお試しく下さい。



<https://boostdraft.com/>

[問い合わせる](#)